

# [岩手県] 大槌町立大槌学園（義務教育学校）

## 1. 学校（区）概要

- 教育目標：「よく考え 心豊かに たくましく」  
“生きる力とふるさと創生を担う子供を育む「ふるさと科」の学びの創造”
- 所在地：岩手県上閉伊郡大槌町大槌第15地割71番9号
- 施設形態：施設一体型
- 児童生徒数（R3.5.1時点）



学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	61	64	77	59	73	60	9	403	66	67	74	9	216	619
学級数	2	2	3	2	3	2	2	14	2	2	3	2	9	23

## 2. 導入経緯

### 【検討開始のきっかけ】

東日本大震災により大きな被害を受け、安心して学べる場と9年間の継続性を持った心のケア、学校を核とした地域コミュニティの再構築等、教育環境の復興を目指し、義務教育学校として一貫教育を推進することとした。

### 【具体的な経緯】

- ・平成27年度 大槌町内の小中学校、義務教育学校で小中一貫教育を推進  
特別の教育課程「ふるさと科」を本格実施
- ・平成28年度 学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールに指定

## 3. 小中一貫教育の取組概要

### ねらい

- 大槌町で目指す「0歳から18歳までのつなぐ教育」の中の義務教育9年間と捉え、育成したい資質・能力としている「自立」「協働」「創造」と「郷土愛」を育むことを目指している。「大槌型一貫教育」（学び方・ふるさと・地域との一貫したつながりを重視した学び）に取り組み、「豊かな育ち」と「確かな学力」を保障する。

### 施設活用（施設一体型）

- 校舎1階に第1学年～第4学年（ホップ期）、校舎2階に第5学年～9学年（ステップ期～ジャンプ期）を配置している。

### 教職員体制

- 学園長1名 副学園長1名 副校長2名
- 小中一貫教育推進委員会を設置

### 教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 教育課程の特例：第1学年～第9学年に「ふるさと科」を設置
- 区切り：4-3-2制
- 学校行事等：期別に児童・生徒集会活動の実施 文化祭の実施 児童会・生徒会活動の実施

### 教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 一部教科担任制：第5学年から音楽、英語、理科 第6学年から社会
- 教員の乗り入れ：中学校教員が小学校の理科、英語、音楽、体育の一部に乗り入れ

### 児童生徒の異学年交流の工夫

- 児童会・生徒会活動、第1学年から第9学年での縦割り班清掃活動
- 「ふるさと科」における探究活動の成果交流

### 市町村教育委員会等による支援

- 「「大槌の教育」推進協議会」、「転入職員研修」「チーム大槌「ふるさと科」推進事業」等により大槌型一貫教育の推進についての研修を実施。

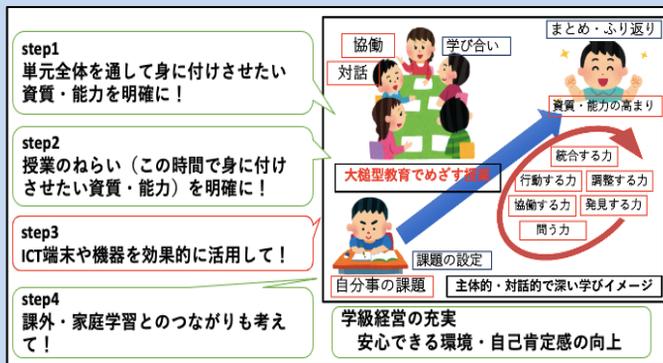
# テーマ：義務教育9年間を見通した「確かな学び」

小中一貫教育の導入に当たって、何を「一貫」して行なっていくのかということが熟議された。9年間を見通して、「身に付けさせたい資質・能力を育むために現段階でどのような指導をするか、そのために体験・経験させるべきことは何か」という視点を持ち、①一貫した「学び方」で、各教科で学びの系統性を意識した授業を行っていくこと、②「ふるさと」とつながる一貫した系統性のある学びを位置付けていくこととした。このような「大槌型一貫教育」を実施することで、「豊かな育ち」と「確かな学力」を保障することを目指している。

## ① 「確かな学び」を保障する「学び方」の工夫

「大槌型一貫教育」で目指す授業のデザインを教職員間で共有し、学び合っていくことで、9年間の途切れない「学び方」で、子どもたちが学習を行えるようにしている。

また、前学年の基礎的な学習の定着度を確かめ、つまづきを把握した上で、つながりある指導を行っていくために、4月に「大槌スタートテスト」を実施している。結果をもとに、系統表で前学年の内容を確認し、「つまづきを生かした指導」についても系統性をもって行い、「確かな学び」につなげている。



【「大槌型一貫教育」で目指す授業のデザイン】

## 【学びの系統表（算数・数学）ステップ期の例】

5年生	6年生	7年生
1 整数と小数（4月）⑤	1 対称な形（4月）⑧	整数の性質（4月）②
2 直方体や立方体の体積（4～5月）⑥	2 文字と式（5月）⑦	1章 正負の数 正負の数 加法と減法 乗法と除法 正負の数の利用（4～6月）③
3 比例（5月）④	3 分数の計算（5～6月）⑨	2章 比と割合 比 割合と百分率 比と割合の利用（8～9月）⑤
4 偶数と奇数、自然数の約数（9月）①	4 角柱と円柱の体積（9月）⑦	3章 比例と反比例 比例 反比例 比例と反比例の利用（9～11月）⑥
9 分数と小数、整数の関係（10月）⑩	9 およその面積や体積（9～10月）⑩	5章 平面図形 図形の移動 基本の作図 おうぎ形（11～12月）④
10 分数のたし算とひき算（10月）⑩	11 並べ方と組み合わせ方（11月）⑩	6章 空間図形 いろいろな立体 立体の組み立て（12月）⑩
11 平均（11月）⑩	12 資料の調べ方（11～12月）⑩	
12 単位量あたりの大きさ（11～12月）⑩		
13 四角形と三角形の面積（12月）⑩		

学びの系統表は、領域ごとに色分けし、系統性が一目で分かるように工夫している。

「ふるさと科」で育てたい6つの資質・能力を、汎用的な力と捉え、例えば、算数・数学の授業の中でも、学習の過程で意識的に見取ったり、発揮できるように工夫していく。

## ② 9年間を見通した「ふるさと科」教育課程の編成による「確かな学び」の保障

大槌学園では「ふるさと科」を核として「確かな学び」を保障するために、9年間を通して「6つの育てたい資質・能力」を設定している。また、9年間で学ぶ学習テーマを大きく3つ（ホップ期では地域の愛着、ステップ期では防災教育、ジャンプ期では生き方）に整理し、各期の系統性を考えてふるさと科の教育課程を編成している。

育てたい資質・能力	【ふるさと科】で育成する資質・能力の系統表		
	ホップ期	ステップ期	ジャンプ期
1 課題解決の力 自己のよさを生かす力 ふるさとに対する関心	自分のよさを見つけられること、ふるさとのよさについて気付くことができる。	自分のよさを複数の観点から見つけられること、ふるさとに対する地域の人や先人の思いを感じ取り、複数の観点からよさに気付くことができる。	自分のよさを生かした将来のあり方や今後の生き方への見通しをもつことができる。現状を踏まえて視野を広げ、ふるさとの魅力やよりよい将来のあり方について気付くことができる。
2 問題解決の力 OPEPの展開 OPEPの発展	解決のために必要なことと考えながら活動ができる。	問題（身体・地域）の考えや意見を取り入れながら、活動に取り組むことができる。	解決のためのアイデアや意見を出し、工夫・改善しながら活動に取り組むことができる。
3 行動する力 課題解決の力	みんなで計画を立て、見通しを持って活動することができる。	目的意識をもってふるさとのために必要な取り組みができる。	目標（よりよい活動・進路実現）の達成に向けて効果的・効率的に取り組むことができる。

## 【「ふるさと科」で育成する資質・能力の系統表（一部抜粋）】

また、カリキュラム・マネジメントを通して、「ふるさと科」と各教科の学びが往還されるように教育課程を工夫している。例えば、「ふるさと科」で学んだことをまとめ、発信する際に、生活科や国語の学習が活用できるよう、単元配当表や年間指導計画を工夫している。

	9月	10月	11月	12月
各教科		国語（書く）「おもちゃの説明をしよう」 →交流会で使ったおもちゃの説明を書く		
		生活科「身近なおもちゃを作ろう」 →交流会で使うおもちゃの作成をする	生活科「町探検をしよう」 →探検の計画を立てる。	
2年生		保育園を招待しよう（5） ○秋祭りを計画し、保育園児を招待し、一緒に活動する。	町たんけんをしよう（5） ○大槌の商店や施設などを探検し、人や施設の魅力を見つける。	

【第2学年年間指導計画の例（一部抜粋）】

## これまでの成果と課題、今後の取組

- 一貫した「学び方」について共通理解を図ることで、1～9年生まで同じ視点で授業改善について考えることができていくが、基礎学力向上のための方策を工夫していく必要がある。
- 各教科の系統性を意識し、「つまづきを生かした指導」に取り組んだことで、岩手県の学力状況調査では、国語、算数・数学共に県比率の経年変化では、緩やかではあるが、改善の傾向が見られている。
- カリキュラム・マネジメントを通して、「ふるさと科」と各教科との学びの往還が図られるよう、今後も「つながり」のある教育課程を工夫していく。